



Next Society について (5月のごあいさつ)

平成 28 年 5 月 1 日 (日)

5月だというのに、意外と涼しい朝夕を過ごしております。

2002年、ピーター・ドラッカーが、**Next Society** を著した。15～20年スパンで社会構造が変化するという思考方法には説得力がある。20年前、人々はアマゾンやグーグルやフェイスブックの現在を予想できなかった。今から15年後には予想もしなかったものが現れ、意外な新産業を生むことになるであろう。

未来はどの方向へ変化するかはわからないという。成功をもたらしたものの変質、暴発的な **E-commerce**、公開会社の株主の変化、労働人口構成の変化、雇用形態の変化、勤労の専門化と自由化と陳腐化、人から機械への労働の移転、テロ事件後のアメリカの変化……。これらは**大きな流れ**となって次の時代への動いている。

このような変化は、前例もなく、川の流れのように再び元へ戻ることはない。その帰結が世界の、そして日本の現状であり、次の社会への流れと言える。将来、世界や日本の次の社会はどのような方向へ進むのであろうか。10年から20年後、機械による自動化によって、**人の仕事の50%近くはなくなる**という予想もある。自動車の**無人運転**は職業運転手の仕事を奪い、更に時が経って**人工知能**が人間の知能や知性と並ぶ日もそんなに遠くはないと言われている。

変化を日々を感じることはできない。しかし、変化は停まることなく、旧式化したシステムや機械の寿命は伸びる筈はない。

「**亡国は亡に至りて而る後に亡を知る**」と荀子は言っている。渦中にある者は、現状が見えないのである。渦中にある者に見えるのは、ある手を打ってすぐに現れる効果だけである。そのような効果は、遠い先を見えなくしている。

ルターは、聖書に**神の言葉**は記されている、しかし、司祭が神との仲介をするというのはウソである。教皇が最も反キリストであり、聖書を読むことが最も大切であると言っている。それは、**現実に存在する本質**から目をそらせてはいけないということである。